

出会いは 感覚を豊かにする

①

実感を持った理解とは？

A児

手に「地図」を持っている。

ホームページ版では、
写真を一部割愛しています。

A児

年長担任 S

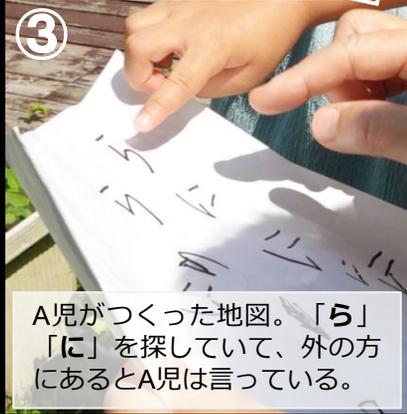
地図

②

えっ？
年少担任 M



あった！



③

A児がつくった地図。「ら」「に」を探していて、外の方にあるとA児は言っている。

④

K児

ホームページ版では、
写真を一部割愛しています。

⑤



木製の名札

「今年の夏は暑いですねーが、この頃ではすっかり「暑中見舞い申し上げます」に代わる挨拶となった気がする。晴れの日、絶対の外遊び日和は少し昔の話で、暑すぎてプール授業が中止となってしまうことがあるように、年々暑さと危険度が増しているような気さえしている。」
この日も、熱中症指数の上昇により、外遊びをできるだけ控える日となった。どうしても外でいたいことがある時は、担任と相談。実は前号のK児も、担任に相談した一人だった。

た。K児が、テラス前の木陰でウメジュースをつくっていた時、何やらこちらを伺う、年少A児の姿があった(①)。すぐにそれに気がついた年長担任Sが、声を掛けた(②)。A児「ら、探してるの。これ地図」先生「ら、どこかなあ」
「どうやらこれは地図らしい(③)。A児「ら、あっちの方(外の方)」先生「外に行きたいですって、担任のM先生に言える？」

A児は、急いで保育室に戻った。担任Sは、後方からそっと見守りつつ、事の一端始終を担任Mにこっそりと伝えた。
やがて、A児と担任Mが外靴を履いてやって来た。手に「ら、探している」との旗を持ち、すっぴん探検隊気分ですも軽やかだ。と、その時、急に立ち止まり、あつた！、何と本当に「ら」を発見したので(④)。A児の地図通りだったことに、周囲は驚きと笑い声で包まれた。あおぞらは、年長児が立てた看板だった。ますます面白くなったA児は、他にもあるぞと辺りを駆け回る。もつとありそう、ここにも、ここにも。確かにそういう目で見渡すと、文字は生活の至る所に存在していた。次にA児が覗き込んだのは植木鉢の葉っぱ、ではなく、名札。K児もウメ遊びの傍ら、協力しにやってきました(⑤)。

ちよい増し
ちよこつとメモ
小学校教育の先取りで文字や計算、運動を指導する一斉保育の園と比較すると、子供主体で自発的な遊びを大事にしている園の方が、語彙得点も運動能力も高かったという研究があります。これは、一方的に教えられるだけでは一人一人の発達

を着実に促せないことを示唆しています。幼児期の終わりまでに育つて欲しい姿(8)には、自らの必要感に基づいてこれら(文字等)を活用し、興味や関心、感覚をもつようになる必要があります。A児の知識(平仮名「ら・に」や地図)は、A児の興味や必要感に基づいて活用され、さらにはA児のやりたい遊びのプロセスの中で、豊かな感覚へと導かれています。幼児は、あらゆる知識を遊びの文脈の中に持ち込み、その意味や働きを感じ取り、時に、その意味を広げていきます。教師の役割は、関心をもったことに存分に取組めるよう遊びの展開を支えることです。その子の邪魔もしませんし、完全に手放しもしません。その子の心の揺れを察し、遊びの広がりや深まりの中で、例えば文字との出会いの様子や関心のもちようを捉えていくのです。遊びの中で得た文字への関心や感覚は、小学校以降の学習の中で、さらに実感を伴った理解、概念形成につながっていきます。物事に関わることで、こんなにも面白くて新しいのが好き、知るのが好き、を体験したA児。今後の成長、計り知れません。

右の2次元コードを読み取るか
クリックで回答をお願いします



ココです。

発行元
お問合せ先

山形県教育局義務教育課

☎023-630-3416

✉kuraokat@pref.yamagata.jp

※1：本通信における「幼小」は、「幼児教育と小学校教育」の略称として使用



アンケート
ご協力
の
お
願